

「スクラップブック」の実践から見る生徒の変容

－中学校美術科における「豊かな感性」の育成の観点から－

長友紀子

(奈良教育大学附属中学校)

A Study of the Transform of Students by making [Scrap Book]

－ From the Standpoint of Cultivating Sensitivity in Art Education －

Noriko NAGATOMO

(Junior high School attached to Nara University of Education)

要旨：美の判断基準・価値意識の育成の可能性を、スクラップブックを3年間作成した中学校3年生のスクラップブックとアンケート結果・記述から検証した。3年間のスクラップブックの制作を通じて、生徒は日常的に「美」を意識するようになった。また、新たに見出された課題をふまえ、スクラップブックの実践の今後を検討する。

キーワード：スクラップブック Scrap Book

感性 Aesthetic senses 発想・構想の能力 Ability to Conceive Ideas and Concepts

1. はじめに

中学校指導要領解説美術編（2008）では、教科の目標を、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」¹⁾とし、「感性」については、「様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力」であるとしている。つまり、「感性」を育てることは、様々な美術作品や日常にあるものを見た時に、そこによさや美しさを感じる力を育てるということである。本実践では、「感性」を豊かにするためのひとつの方法として、「美しさ」を感じる力を育てることに着目した。

中学1年生に、初めての美術の授業で「美しい」とはということか、と質問をすると、かなり困った様子を見せる。彼・彼女らにとって「かっこいい」や「かわいい」はわかりやすいのだが、「美しい」ということがどういうことなのか、はっきりと言うことができないのである。似たような言葉に「きれい」があるが、これもなんとなく曖昧で、特に美術作品のような人工的なものに対しては「きれい」だけでは言い切れないと思っているようなところもある。

一方、「美しい」と感じる力を育てるというのは、美術科を教える側にとっても曖昧ではっきりしない部分を多く含んでいるように思われる。ひとことに「美しい」といっても、人によって判断基準は異なるし、好みもある。

何をもって「美しい」と感じる力を育成することができたとと言えるのだろうか。また、「美しい」とはどういうことだと中学生に教えればいいのか。

本稿では、中学生の「美しい」と感じる力がどのような働きかけによって育成されるのかを、現在、奈良教育大学附属中学校美術科で制作している「スクラップブック」の実践を通して検証する。

2. 「美しい」と感じる力

「美しい」とは、ということだろうか。何かを見て、人は「美しい」と感じる。視覚情報による美しさの認知に関していうと、人々が「美しい」と感じる対象は風景であったり、もののもつ色彩であったり、作り出された形であったりする。

この「美しい」と感じる能力については、これまでも様々な研究が行われてきたが、西信高・池内慈朗の論著に、心理学、美術教育学、人類学、脳神経科学の研究成果を取り入れながら述べられたものがあり²⁾、本稿ではこれを参考に考察を行った。

西・池内は、「美」には、自然物（草花・木など）や人間の容貌といった「美」と、アートの「美」があるとし、自然物や人間の容貌などの「美」には普遍的で妥当性のある判断基準が生得的に備わっていると述べる。一方で、アートの「美」については、グッドマンやガードナーに拠りながら、「つぎつぎに生まれていく人工物を、理性で認識し、シンボル・システムとしての「美」とされるものを美として認識していく過程としてとらえられる。」と

している。そして、子どものアートの鑑賞力やアート性の理解の発達について、ビクトル・ローウェンフェルドからパーソンズの5段階認知発達理論（表1）の研究まで代表的なものをあげながら、アートの「美」の判断基準の発達は、その個人の育った文化、環境、社会の中で、そのシンボル・システムを学習することによって実現されるものであり、アートの「美」の基準の発達は、段階的に進むと結論づけている。

表1 パーソンズの5段階認知発達理論

ステージ1：好みの時期（年齢：ほぼ就学前の児童期）
ステージ2：美と写実主義の時期（小学生時代）
ステージ3：自己表現期（青年時代）
ステージ4：スタイルとフォーム期（ほぼ大学時代）
ステージ5：自己と経験期（個人によってばらつきあり）

中学生は、パーソンズの段階でいうとステージ3の青年時代の入り口といえることができる。ステージ2はリアリズムの範囲の中でのみ判断し、嗜好を論じる段階で、ステージ3はすでに形成された主観が美の判断基準に関わるようになり、したがって、解釈は個人のバックグラウンドによって異なってくる、とされる。本校の生徒の様子から考えると、精神的にやや幼さの残る生徒も多く、実際にはステージ2からステージ3への移行期というところかもしれない。

生徒の「感性」を育てるという観点から見て、このような段階にある子どもたちに対して、スクラップブックはどのような影響を与えているのだろうか。次に、スクラップブックの概要と、アンケートの回答について述べ、考察を行う。

3. スクラップブックの実践

3. 1. スクラップブックの概要

スクラップブックの取り組みは、授業外課題として1年生から3年生までの3年間を通して行っている。使用しているスクラップブックは、A4サイズ40枚つづりの「SCRAP BOOK」である。（図1）



図1 使用している「SCRAP BOOK」

課題内容としては、「自分が美しいと思うものを集めること」を条件とし、取り組むにあたっては、スクラップブックに貼りこめるものを使って、①自由に構成すること、②日常的に取り組むこと、の2点を条件としている。

今回、スクラップブックについてアンケートによる生徒の意識調査を行った。対象としたのは2016年度3年生150名、実施時期は2学期のスクラップブック提出後である。アンケートの項目は以下の通りである。

- ①スクラップブックに集めたものの種類（複数回答可）
- ②美に対する感覚が高まったか
（はい・いいえ・どちらでもない）、自由記述有
- ③スクラップブックの制作が授業に役立ったことがあるか（はい・いいえ・どちらでもない）、自由記述有
- ④自分の価値観を育てることに有効だと感じたか
（はい・いいえ・どちらでもない）、自由記述有
- ⑤スクラップブック制作によって変化したこと（複数回答可）
- ⑥スクラップブックの制作を通して印象に残っていること（自由記述）

3. 2. アンケート結果

アンケートの結果について、以下に示す。

スクラップブックに集めたものの種類を問うアンケートの質問①については以下の結果となった。（表2）

表2 質問①の回答

種類	回答数
チラシ	171
新聞切り抜き	44
雑誌切り抜き	285
自分の作品	103
調べた内容	24
写真	120

全体として見ると、集めたものの種類に関わらず、風景がテーマとして多く見られた。雑誌の切り抜きや、チラシでも風景を扱ったものが多く、新聞の切り抜きや自分で撮った写真と合わせて、風景は大きな比重を占めた。風景以外では、飲食物に関するもの、ファッション関係、デザイン関係のものが多かった。調べた内容については、授業で取り上げた作家や作品について、さらに自分なりに資料を調べてまとめたものが多かった。

チラシについては、美術教室前に展覧会のチラシを置いていることなどから、美術関係のものも多く見られた（図2）。また、150名の回答者のうち、77名は自分の絵を貼りこんだと答えている。絵には、イラストや漫画

の模写、スケッチなどがある。中には直にスクラップブックに絵や文字を描きこみ、ページをひとつの作品として構成する生徒も見られた。

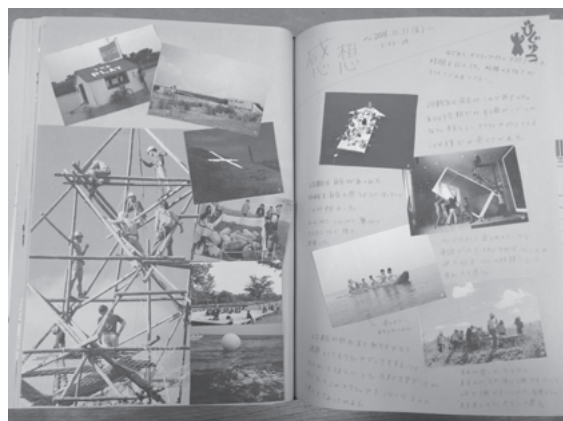


図2 展覧会のチラシを使用した例

次に、質問②、③、④について回答の割合をまとめた。(図3)

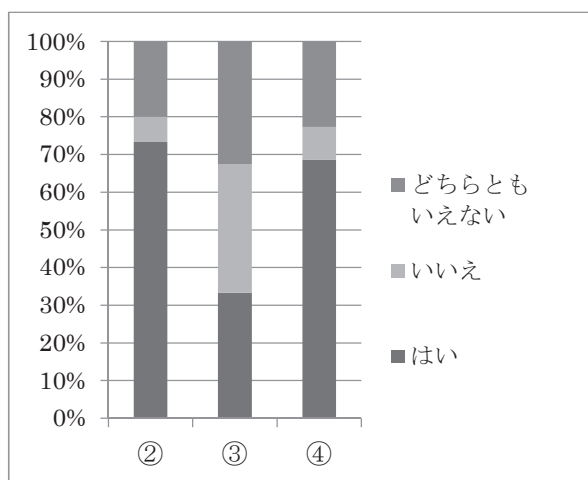


図3 アンケート 質問②、③、④の回答結果

質問②、④については、「はい」と答えた生徒が多かった。質問②については、「今まで見過ごして何も考えていなかった日常的なものに美を感じられるようになった」「日常的に「美」を探していたので、美しいものをこれまで以上に見つけることができました。日常生活の中のどこでも気をはっていたので、「美」に対する感覚が高まった。」などの記述があった。

質問②、④のどちらか、もしくは両方に「いいえ」と答えた生徒には「ただ写真を貼っていただけだったので、物がどう美しいかや、物をどう美しく見せるかという感覚は変わらなかった。」などの記述があった。

次に、質問⑤の結果をまとめた。選択肢①～⑦から複数回答可として回答を求めた(表3)。

表3 アンケート 質問⑤の回答結果

	選択肢	回答数
①	今まで気づかなかったことに気づくようになった。	106
②	日常的に美しいものについて考えることが増えた。	99
③	授業でアイデアが出やすくなった。	56
④	美術の授業に興味がわくようになった。	64
⑤	展覧会に行く機会が増えた。	28
⑥	美術に関する知識が増えた。	43
⑦	特になし	15

質問②、③、④には自由記述ができるようになっていく。生徒の記述を以下に示す。

生徒A「小学生までは私にとっての「美」とは絵画などだった。しかし、「美」とはなんだろうかと考えることによって、私の価値観が広がった。1つに固定されたものでなくなったように思う。はじめはスクラップと聞いて何をしていけばいいかわからず、とても戸惑っていた。しかし、授業である人のスクラップを見た時から自分の中でどういうものをスクラップしたいのかという指針が定まった。そのときから、私のスクラップブックは変わっていった。そのスクラップブックの作法が変わった、自分の中で何を美として追及したいのかが定まったときが一番印象に残っている。」(図4)

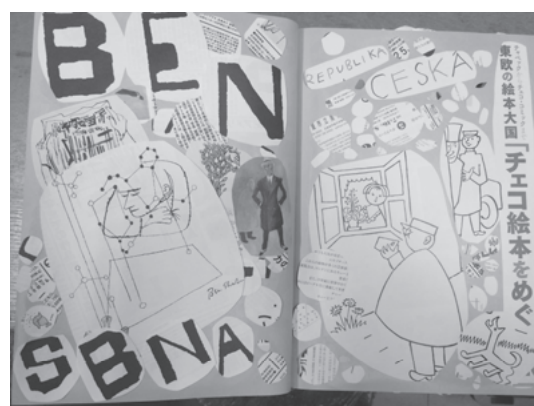


図4 生徒Aの「SCRAP BOOK」

生徒B「1、2年生の時にはただ課題としてきれいだなと思ったものを集めるだけがスクラップブックだと思っていた。3年生の2学期の提出分になって、はじめて自分にとって興味があって面白いものと、美しさがつながったと感じた。まだ言いきれない部分もあるが、最近やっと自分がしたかったスクラップができるようになってきた。スクラップブックを作ること、自分がしたい

こと、面白いと思うことを考える機会になっていると思う。それが自分の価値観を育てることだと思う。」(図5)



図5 生徒Bの「SCRAP BOOK」

生徒C「自分のスクラップブックを作ってみて、みんなのていねいな切り貼りを見るとやっぱり私はこういうのは好かないなあと感じます。自分のものの方が見劣りするのですが、主張がでていいるなあ、好きだなあとわかることが多く、自分の好きなもの、つまり価値観がわかんと思います。わたしは真面目でもなくて忘れっぽいのでスクラップブックが最後まで終わらないことばかりでしたが、空間を埋める方法というか、どうやったら受けるかみたいなのはよく考えさせられました。スクラップブックは小さいものでも続けたいなと思います。」(図6)



図6 生徒Cの「SCRAP BOOK」

生徒D「人のスクラップブックと見比べたとき、共感できるところもあれば、自分はあまり美だと思っていなかったところを取り上げているところもあって、それが自分の価値観を知って、さらに育てることにもつながると思った。」

生徒E「スクラップブックに何を貼ろうかと考えることを繰り返すことで、美しい、おもしろい、そうでもな

い、と自分で考えることができた。スクラップブックそのものが自分の気に入ったもののかたまりだから、それを作る時に自分の価値観を育てることになると思う。」

3. 3. 考察

まず、自由記述の内容について考察する。

生徒Aは、普通の授業では質問などをあまりしない、比較的引っ込み思案な生徒である。しかし、技能的には発想したことを実現する力を持っていて、できあがった作品には生徒Aの意図がしっかりと表れていることが多かった。入学当初は、美術に対するイメージの幅が狭かったのが、美とはなにか、と考えることを繰り返すことで、次第に美に対する認識が広がっていったことが読み取れる。スクラップブックの制作方法が自分の中で定まった時、生徒Aの中に、美に対する価値観が自覚的に形成されたのではないだろうか。そして、このスクラップブックを制作することで生まれた感じ方や価値観が、作品に反映されていったのではないかと考えられる。

生徒Bの記述からは、生徒ひとりひとりが3年間の中で、それぞれのペースで自分の価値観を育てていった様子を知ることができた。生徒によって、3年間の中でも成長する時期が異なるが、スクラップブックは授業外課題として自由に取り組むことが可能なため、生徒の個々の違いに、より柔軟に対応できたのではないだろうか。

生徒Bは、自分の中に殻があり、のびのびと思ったことを表現しきれない生徒であったが、3年生のスクラップブックには、何か「好きなようにやっている」という印象があった。それが、自由記述の「3年生の2学期の提出分になって、はじめて自分にとって興味があって面白いものと、美しさがつながったと感じた。まだ言いきれない部分もあるが、最近やっと自分がしたかったスクラップができるようになってきた。」という言葉に表れている。生徒の美に対する意識の変容が、スクラップブックの制作によって促されたと考えられる。また、3年間継続して制作を行うことで、生徒によって異なる成長のタイミングを保障することができたと感じた。

生徒Cは美術部に所属し、普段からイラストを雑誌に投稿したり、ギャラリーに足を運んだりするなど、人に見せることや、自分の美意識に対して敏感な生徒である。毎回の提出後、スクラップブックの中から、良い作品を紹介することになっているのだが、その中に生徒Cの作品が選ばれたことがあり、その経験について、「これが心の底からできた芸術ということか、と思った。」と記述している。自分の感覚を出す場として、また、それを人に見せる場としてスクラップブックが効果的に作用した結果であろう。

生徒Dは、授業に常に真剣に向き合い、題材の意図をくみ取って制作しようとする傾向の強い生徒である。スクラップブックを制作することに加え、友だちのスクラップブックを鑑賞することからも、自分なりの感覚の

育ちを認識している。

生徒Eは、記述にもあるように「美」というテーマを与えられた時に、「何を貼ろうかと考えることを繰り返すことで、美しい、おもしろい、そうでもない、と自分で考え」た。結果として、完成したスクラップブックを見て、自分なりの価値観が目に見えるようになったことに達成感や喜びを感じたことは、生徒Eの価値観の形成に効果をもたらしたのではないかと考える。

アンケート全体を通して、多くの生徒がスクラップブックを制作することで、「周囲のものを意識的に見る」や「美しいとは何かを日常的に考える」といった機会が増えたと感じていた。スクラップブックの制作は、生徒の「美しい」と感じる力の育成に、一定の効果を持っていると言ってよいのではないだろうか。図3から、質問②、④の回答の「はい」と答えた生徒の割合が多いことがわかる。生徒はスクラップブックを制作することで、「美」に対する感覚や価値観の育ちがあると感じたということができよう。また、表3に示した質問⑤の回答では、選択肢①、②を選んだ生徒が多かった。生徒はスクラップブックを課題として制作することで、日常的に美について意識するようになったことがわかる。アンケートの結果からは、スクラップブックが生徒の「美しい」と感じる力を育て、自分なりの価値意識の創造に一定の効果をもったと考えてよいと思う。

4. 今後の課題

最後に、アンケートから読み取った今後の課題について触れておきたい。図3に示した質問③は、生徒が、授業外の課題であるスクラップブックが作品制作にどれだけ結び付いたと考えたかを知るために設けた項目である。結果は、「いいえ」、「どちらでもない」と答えた生徒が3分の2ほどになった。生徒の記述の中で多かったのは、スクラップブックは自分の好きなものを集めて貼っているもので、授業で出る題材とは関係がなかった、というものである。「いいえ」、「どちらでもない」と答えた生徒の多くは、スクラップブックを独立した課題ととらえ、そこでの学びが授業での制作につながるという意識は持っていなかった。このことは、表3の選択肢③にも表れている。

図3に示した質問③で「いいえ」「どちらでもない」と答えた生徒の半数以上が、質問②、④で「はい」と答えている。「美」に対する感覚や価値観の育ちという点で見れば、スクラップブックは「美しい」と感じる力を育てることに有効な題材であったといえるだろう。今後は、

スクラップブックで育てた力を自分なりの判断基準として、生徒が作品制作や鑑賞を行うことができるように、働きかけを考えていく必要がある。また、3年間のカリキュラムの中の題材とスクラップブックを効果的に関連付けて、生徒が自分自身の価値観の変容や育ちを実感することができるようにしていくことの必要性も感じた。

2016年8月に示された次期学習指導要領審議まとめには、美術科の目標のあり方について、「図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）で育成すべき資質・能力について、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱は相互に関連し合い、一体となって働くことが重要である。このため、必ずしも、別々に分けて育成したり、「知識・技能」を習得してから「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるといった順序性を持って育成したりするものではないことに留意する必要がある。」と述べられている³⁾。ここにある「三つの柱が相互に関連しあい、一体となって働くことが重要である」という点について、スクラップブックの複合的な学びの要素を生かし、スクラップブックに他の題材を関連づけるなどすることで、おもしろい形の授業ができるのではないかと考えている。

また、米国の「21世紀型スキル」をふまえた美術教育スタンダードについてのふじえみつる氏の論考⁴⁾にも、これから考えていくべき新しい美術科のあり方への興味深い示唆が含まれているように思う。今後は、さらに調査研究を重ね、スクラップブックの実践の改善や、授業づくりを進めていきたい。

参考文献

- 1) 文部科学省(2008)「中学校学習指導要領解説 美術編」p6-10
- 2) 西信高・池内慈朗(1992)、「「美」の判断基準の発達と障害児教育」,島根大学教育学部紀要,第26巻,pp.15-26
- 3) 文部科学省ウェブサイト,「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」(2016. 8.26 更新)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm
- 4) ふじえみつる(2016),「「コア芸術スタンダード」と美術教育 — 「芸術的プロセス」と「メディア・アート」について」愛知教育大学研究報告,教育科学編. 2016, 65, pp 227-235